

第 11 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

「様々な業種で活躍する女性のキャリア形成の指針」開催報告

2024 年 9 月 25 日（水）に日本放射線影響学会第 67 回大会において第 11 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーが現地開催された。本セミナーは「様々な業種で活躍する女性のキャリア形成の指針」と題し、特別講演を通してキャリアパスや男女共同参画に関し、社会で求められる活動について講演者および参加者と共に考えた。

開会挨拶では、本委員会の平山亮一委員長からセミナーの趣旨説明や属性調査アンケートの経過報告があった。アンケート結果から、大会参加者の男女比は、概ね 3 : 1（74% : 24%）であった。学術大会参加者の年代別の割合は 20、30、40、ならびに 50 代で全世代の 20%前後を各年代が平均的に占めており、若手、中堅、シニアの会員がバランス良く参加していることがわかった。本大会の学術プログラムでは多様な分野にまたがるセッションが企画され、さらにはセミナーやサテライト企画、情報交換会などの多彩なイベントが盛り込まれていたため、全世代の会員の興味を惹くような大会であったと思われる。このような多様性に富んだプログラムは今後も継続すべきである。

特別講演では二人の演者に講演いただいた。はじめに、北九州市議会議

員の井上純子先生からは「ママから始めるキャリア形成」というタイトルでご講演いただいた。井上先生は 3 人の子育てをしながら、市役所の行政職員として勤務されていた際、子育てを言い訳にしないスタイル（ポリシー）で活躍されたことを話され、自分の「生き方」への理解を得るには、まわりに必要とされること、そして自己肯定感を高め、主体的に行動することが重要であると自らの体験談を通じて紹介された。本学会員においては、成果発表等で自らをアピールすることが重要で、本委員会がサポートできることとして若い世代が活躍する場として学術発表の機会のみならず、イベントの企画や委員就任などの機会を与え、幅広い学会活動を通じて本学会にとって必要な人材であることを認識・体感していただけるような仕組み作りが必要と感じた。

次に、産業医科大学の辻真弓先生からは「無理なく、楽しくを目指して～女性研究者・産業医としての経験から～」というタイトルでご講演いただいた。ご自身のキャリアを形成していく上で、家族のサポートはもちろんのこと、職場での研究者仲間のサポートや理解が重要であったことを紹介された。そこで、例えば本委員会メンバーで誰がどのようなロールモデルになるか、誰になら〇〇が相談できるかを、リスト化することを勧められた。本委員会として、男女共同参画への支援に加え、企画委員会 SIT プログラム小委員会、グローバル化委員会若手部会、教育研修委員会などの関連委員会と連携し、若手・中堅研究

者のキャリア形成への支援策を考えていきたい。

閉会挨拶では、大会長である産業医科大学の岡崎龍史先生に総括していただき、引き続き、本学会のキャリアパス・男女共同参画委員会への強いご支援と期待をいただいた。

今後もキャリアパス・男女共同参画委員会は会員への情報提供を行い、セミナーや学術大会参加支援等を継続していきます。

2024-2025 年度日本放射線影響学会

キャリアパス・男女共同参画委員会

柿沼志津子（QST・放医研）

神長輝一（QST・量子生命）

神崎訓枝（JAEA）

砂田成章（順天堂大）

鶴岡千鶴（QST・放医研）

平山亮一（QST・QST 病院）：委員長

藤通有希（電中研）：副委員長

柳原晃弘（国がん）